

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です！

富士見町のみなさん、こんにちは。地域おこし協力隊の松井です。

シェアオフィス・コワーキングスペース「富士見 森のオフィス」で働いています。前は、「コワーキングスペース」について紹介がありましたので、今回は「シェアオフィス」についてお話をしたいと思います。



「シェアオフィス」というのは、一社のみによってオフィススペースを占有するのではなく、複数の会社が共有する(シェアする)オフィススペースのことを言います。

「シェアオフィス」の形態は1990年代後半のITブームの頃にアメリカで始まりました。オフィスやオフィス機器を共有することによってコストを抑えられるため、起業したての会社や個人事業主にとって多くのメリットがあり、ベンチャーブームと共に徐々に日本にも広まってきました。

ですが、「シェアオフィス」のメリットはコスト

だけではなく、企業間の交流や出会いが生まれることにもあります。出会いが新しいビジネスにつながったり、「シェアオフィス」が情報や技術を交換する場になるなど、ビジネスの発展においても様々な成果を生み出しています。

「富士見 森のオフィス」のシェアオフィスには8社の企業が入居しています。異なる業種の方々が、日々のオフィス生活を共にすることで、良い刺激や支え合う関係が生まれている様に感じています。私はそんな日々の人と人とのつながりから生まれる「可能性」にとってもわくわくしています。是非みなさんも見学や遊びにいらしてください。



▲入居企業による「電力自由化セミナー」

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町子ども読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

今月は「家庭の日読書カード」をご紹介します。

平成27年度から配布しているリーフレットの中央には、家庭読書の日<読書で家族のふれあいを>を、デザインしています。本と遊び、本に学ぶ子どもを育てるには、ご家庭を中心という思いが込められています。

Q.家庭の日とは？

A.富士見町では、毎月第3日曜日を家庭読書の日として、子どもたちへ読書活動の推進するために、各年齢に応じた活動を行っています。



▲小学校配布 家庭の日読書カード

「家庭読書の日カード」

町内の小・中学校へ配布しました。毎月第3日曜日には、ぜひご家庭で読書をする機会を持ってほしいと思います。カードは、小学校のデザインは共通、「おうちのひとと一緒に」という形で自分で読んだ本のタイトルと感想を記入し、おうちの方からいただくサインのスペースが設けられています。

中学校のデザインは生徒の自主性を尊重した内容となっています。それぞれで記入し、おススメ度などを☆の数で記録することができます。

保育園等へも今後配布予定です。お手元へ届きましたら、ぜひご活用ください。

今回は英語のおはなし会の活動内容をご報告します。



▲第2次子ども読書活動推進計画 家庭読書の日リーフレット

◆迎 弘樹さん（立沢）

2013年に農業をしに東京から夫婦で移住をしました。2年間の里親研修後、独立して立沢で菊を栽培し2年目です。

1年目では設備など研修とは違う環境やプレッシャーで思うように進まない状況でしたが、地域の方々の助けやアドバイスのおかげで利益を出すことが出来ました。今年は作付面積を増やし、昨年よりも規模拡大をしていく予定です。そして今年から①高冷地であるからこそ鮮やかな発色の良い菊が生産できる強みをいかし洋菊への挑戦。②自然現象に左右されない計画的出荷を目的に電照栽培の実施。③子育て中のママさん、定年退職された方々の雇用。この3つを新しく実行中です。

富士見町では高冷地を生かし先輩方の高い技術の元、市場からも高評価を頂く菊を生産しています。私達のような移住者も仲間に入れてくれ、感謝の言葉が見つからないほど日々人の温かさを感じています。今年は御柱ということもあり業種を越えた新しい仲間も増え、立沢での生活も安定してきました。

今後は先輩方の技術に少しでも追いつき、新しい挑戦をしていながら農業の楽しさを発信していけたらと思っています。これからもよろしくお願いします。



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

命を守るために

まずは、4月14日に発生した熊本地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申しあげます。子育てひろばAiAiでは、被災された方々へのお見舞いのために、5月下旬まで義援金募集を行いました。集まった義援金は、全国の子育てひろばを支援する中間支援団体を通じて現地に届けられ、被災された子育て家庭支援に使われます。小さな子どもを抱えての避難生活を余儀なくされている家庭の役に立てられることを願っています。

さて、このような大規模災害が発生するたびに、家庭ごとの「備え」の必要性が多くのメディアで取り上げられます。特に地震の場合、揺れた瞬間、保護者は自分と子どもの命を守らないといけません、状況によって備えがないとかなり難しい場合があります。少なくとも自宅が安全な場所になるよう家具などの転倒防止、収納家具を高いものから低いものへ変える、ガラス窓が割れないよう飛散防止フィルムを貼る、または常にカーテンをひいておくなど、自分で自分の命を守る術をまだ身につけていない年齢の子どもの命を守るために、普段からの対策は必須です。AiAiでは、毎年9月の防災の日に、乳幼児子育て家庭向けの防災イベント「いっしょに防災」を開催しています。日々の子育て生活に防災の意識を組み込むのは、精神的にも経済的にも大変です。わかっているけれどなかなか行動に移せないというのが現実でしょう。そこで、少しずつできる範囲で防災対策を始められるよう、身近な防災グッズの紹介、避難生活シミュレーションなど、毎年内容を工夫して発信しています。また、乳幼児子育て中のお母さんのための非常時お役立ちグッズをコンパクトにまとめたエマージェンシーポーチも提供しています。詳しくは子育てひろばAiAiのスタッフまでお問い合わせください。



▲昨年の防災イベント「親子で焚き火体験」(避難生活体験)



▲非常時向けの備蓄品の展示